
部活の後輩

雨と傘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部活の後輩

【Nコード】

N6422U

【作者名】

雨と傘

【あらすじ】

『気になるあの人』の番外編です。

主人公は友人のさくら。

単独でも読めます。

恋愛要素は後半にちよびつと出てくるぐらいです。

最近、よく話す後輩がいる。

季節は梅雨。

外に顔をむけると昨日からの雨が降り続けている。

梅雨独特のジメジメとした空気のせいか、髪が首に纏わりついてくる感覚がする。

「（うざいっ…）」

雨は別に嫌いではないがこの梅雨独特のジメジメ感は嫌いだ。

前に目を向けると友人の美里が黒板の文字を書き写している。

やはり髪が邪魔なのか背中まで伸ばしている黒髪を首横で一纏めひくまとにしている。

水色と黄色のストライプのシュシュがよく似合っている。

美里の髪は綺麗なストレートで、手入れがうまいのかツヤツヤとしている。

私の髪はくせがあるから、とても羨ましい。

もう一人の友人のナツは別のクラスだが、たぶん漫画のネタを考えながら授業を受けていることだろう。

締め切りが近いのにネタが思いつかないと朝会ったときに愚痴っていた。

今の授業科目は数学。

別に苦手でも嫌いでもないが、このジメジメした空間にいるとやる気が無くなる。

早く放課後になれーと、心の中で念じてみる。

時間は速くなったりしないけど、早く竹刀を握りたい。
今日は模擬試合をすると、顧問が言っていた。
ひさしぶりだから、とても楽しみだ。

私は剣道部に所属している。

長いこと竹刀を握っているから、それなりに強いと思う。
剣道は小学校の頃に始めた。

きっかけは両親だった。

ある日、

「この中からどれか一つ選びなさい。」と父が言い、

「女の子だからいろいろと心配だし、一応護身術は習っておかないとね。」と母が良い笑顔で言った。

渡された紙には、いろんな武術がずらりと並んでいた。

…お母さん、お父さん。合気道や柔道、剣道は分かる。

だけど、モデル・マギングとかゼロレンジコンバットってなんですか。

聞いたことないんだけど。と思ったことをよく覚えていて。

たぶん、私を心配しているいろと調べてくれたんだろうけど。

あの時は物凄く驚いた。

私は剣道に興味を引かれ習うことにした。

剣道の道場はすこし離れたところにあったから、馴れるまでは車で送ってもらった。

そのうち自転車で通うようになった。

道場は厳しい顔の師範が剣道を教えていた。

師範は厳しくて途中で何度も挫折そうになった。

だけどたまに「よく頑張ったな。」とほめてくれるのが嬉しくて、頑張った。

今思うと飴と鞭の使い分けがうまかったんだと思う。

中学校では部活と道場の両方に通った。

部活優先で、予定を見て道場に行った。

高校生になって道場は辞めたけど、今でもたまたま道場に顔を出す。

師範は相変わらず強く、衰え知らず。

5本中3本取れたらいいほうだ。

最近では師範の息子が帰ってきて、道場の手伝いをしている。

若師匠と呼ばれていて、師範に似ていない。

最近流行りの草食系の顔立ちだ。

だけど性格は師匠そっくりで、にっこり笑いながら厳しいことを言う。

若師匠と前に顔を出した時に話したただけだったから、今度手合わせ願いたいと思っている。

高校は強豪校ではないが、剣道の強い所に入った。

一応、進学校だ。

部活も盛んで、文武両道がモットーらしい。

中学生から仲の良い2人も同じになった。

2人とも文学少女な感じだが、まったく中身が違う。

美里は本の虫で、ナツは漫画が大好きなオタクだ。

…オタクじゃなくて、ヲタクだっけ？

部活はもうすぐ3年が引退して、私たち2年生が引っ張っていくことになる。

1年生も仮入部から本入部になるだろう。

キーン、コーン、と鐘の音が鳴り、授業の終わりを告げる。

「……よし、今日の授業はここまで。」

明日は小テストするからちゃんと復習しとけよー。」

えーと不満の声が上がる。

「抜き打ちのほうがかかったかー？」

と言うと、うへーと声上がる。

うちのクラスはノリがいい。

春にあった新緑祭（運動会のこと）も盛り上がったし、秋にある文化祭も楽しくなりそうだ。

HRも終わり、鞆を持って部活に向かう。

模擬試合が楽しみで足取りも軽く感じる。

「木上先輩！こんにちは！」と後ろから元気な声が出た。

「ん、こんにちは。」

挨拶を返せば嬉しそうな顔をしてこっちにやってくる。

小型犬っぽい。

ひとつ下の後輩で、名前は如月龍太。

利発そうな顔立ちと低めの身長のいつも元気な奴だ。

「かーわーいーいー！」と女子に好評で、いつも「りゅーちゃん」と言われている。

最近では男子からも「りゅーちゃん」と言われ、からかわれている。いじられ體質、というものなのだろう。

如月は剣道部のマスケットキャラとなっている。

「今日は模擬試合するって監督が言ってたっすよね！」

楽しみです！と言う姿は犬がしっぽをぶんぶん振っているように見える。

イメージ的には柴犬。

あー、柴犬は小型犬じゃなくて中型犬か。

話していると道場に着いた。

話したと言っても如月がしゃべって、私が相槌を打っただけだったけど。

「んじゃあ、頑張れよ。」

気合の入っている如月に軽い激励の言葉を送る。

「先輩！」

如月は不安そうな顔をしてこっちを見る。

「今日、頑張るんで絶対に試合見てください。」

私のほうが背が高いから自然と上目になる。

…もしかしたら、その辺の女子よりも可愛いかもしれない。
将来有望だな。

「あー、試合が重ならなかったらなー。」

なんとなく直視できなくて軽く視線を逸らしながら答える。

「っ、はいっ！」

不安そうな顔から一転、笑顔になる。

表情がコロコロよく変わるなー。

やっぱり柴犬っぽい。

如月は周りに元気に挨拶をしながら道場に入っていく。

模擬試合があるからなのか、空気がいつもより引き締まっている。

こういう空気は自然と士気が上がるから好きだ。

目を閉じ、深呼吸をして気持ちを引き締める。

とりあえず、今日の目標は全戦全勝。

『目標は高く』が私の座右の銘だ。

頑張るぞー。

(後書き)

ほとんどが説明で終わったような気が…。
コンパクトにできるようにしたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6422u/>

部活の後輩

2011年8月4日10時23分発行